



超小型飛行ロボット」

2011年国連環境計画（UNEP）シユタイナー事務局長は「人間の食料の9割を占める農作物100種のうち7割はミツバチが受粉している」と報告しました。

そして、世界各地で起こっているミツバチ大量死について、農業が原因ではないかと危機感も高まりました。

丁度その頃、私は友人から自家製ハチミツをいただいたことを思い出しました。自宅でミツバチをかい、そのミツバチからの恩恵に心を込めてひと瓶ひと瓶に詰めている、彼女の自然を守りたいという思いを伺い感動したことを覚えています。

さて、受粉するミツバチがいなくなれば今後どうやって農作物を作ればいいのかという不安の答えは「科学技術は高速で人間を追い越してゆく」でした。ハーバード大学のワイズ研究所では

2013年からこの問題を解決する素晴らしいアイテムを開発しています。人工筋肉で空を飛び、ハチと同じように受粉作業を行う

一円玉サイズのロボットミツバチ「ロボビー」です。

水中を泳ぎ、障害物をよけ、花粉をつまんでスピーディーに運び、本物のハチと同じように集団で編隊を組ませ、飛ぶことができます。

年々バージョンアップされ、飛行と受粉をコントロールできるGPS搭載型モデルの研究も進んでいます。

2019年にはさらに進化、太陽電池を使い、軽量化と長時間の自立飛行が可能となりました。ロボビーだけでなく、ジョージア州で開発されているのは搭載された小型カメラで花を認識し穴から吸い込んだ花粉を別の吹き出し口から噴射するミニドローン「プランビー」です。もちろん日本でもドローンを使った受粉実験がつくば市や青森県でも成功しています。

つくば市の産業技術総合研究所では、ハチの全身を覆う細かい毛をまねて馬の毛を使ってドローンを覆い粘着質のワックス用のゲルで

コーティングした小型ドローンによる作物の受粉を助ける論文も発表されました。

ロボットミツバチの受粉が普及すればミツバチの代わりにしてくれると。科学の進歩とは何か、を考えさせられます。

6月13日に食事会として、肉野菜炒めを作りました。

様々な野菜とお肉を炒めて、塩コショウと焼き肉のたれで味付けをして完成です。

美味しく出来上がり、ご利用者の皆様も満足されていました。

スタミナをつけて、ご利用者皆さまと一緒に暑い夏を乗り越えていきたいと思ひます。

